

令和元年度 士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施状況シート（実績見込み）

令和元年10月末時点での実績及び見込み

1. 重点プロジェクト「農業未来都市創造事業」の実施状況

(1) やさしい農業農村づくり

【事業名：やさしい農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.1】 地域資源を活用した学校教育推進事業	総合的な学習の時間を活用し、小学生が農業についての体験や学習を行うことで、農業への理解を深めるとともに、愛郷心の醸成を図る。	○小学校3年生から6年生の児童を対象とした「農業学習」を実施した。 * 農業学習履修時間 45時間	○小学校3年生から6年生の児童を対象とした「農業学習」を実施する。 * 農業学習履修時間 50時間

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】					目標値	評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
農業学習履修時間	計画	35	35	40	45	50	205時間	〈達成〉 【事業の効果】 農業学習を実施することで、基幹産業である農業への理解が深まった。
	実績	35	35	40	45	50	205時間	

【No.2】 農業未来都市構想策定事業	農業後継者や新規参入者が円滑に研修できる体制を整備し、本市農業の振興発展に期するため、本市としてのシステム構築と将来ビジョンを策定する。	○H27年度で事業完了	
【No.3】 農業農村担い手支援事業	担い手の近代的経営感覚を養うとともに、経営規模拡大に向けた支援を行う。	○新規就農者等の農地集積に向け、賃貸料及び制度資金利子を助成した。 * 賃貸料助成 19件 ○新規参入者に対して、農業生産に係る不動産の取得に伴う固定資産税相当額を助成した。 * 助成対象者 2人 ○大都市圏で開催された就農相談会等に出展した。 * 新農業人フェア(札幌会場) ○大学、専門学校等を訪問し、就農希望者の誘致活動を行った。 * 江別市、深川市 ○士別市受入農家協議会に、受入地区研修支援助成。 ※受入地区数 1地区	○新規就農者等の農地集積に向け、賃貸料及び制度資金利子を助成予定 * 賃貸料助成 20件 ○新規参入者に対して、農業生産に係る不動産の取得に伴う固定資産税相当額を助成予定 * 対象者 3人 ○大都市圏で開催される就農相談会等に出展した。 * 新農業人フェア(東京会場) * 北海道新規就農フェア(札幌市) ○大学、専門学校等を訪問し、就農希望者の誘致活動を行った。 * 札幌市、江別市、深川市 ○士別市受入農家協議会に、受入地区研修支援助成 * 受入地区数 1地区
【No.4】 しべつ農村塾運営事業	地域の農業者や関係者とともに農業のあり方を研修する。	○「農作物栽培試験・栽培技術向上推進事業」へ統合した。 ○学識経験者を新たに1人委嘱し、総合的な助言を受けた。 ○地域の農業者や関係者とともに農作物の収量向上に向けた取り組みを実施した。 ○つくも4号の普及推進	○士別市農業応援アドバイザーより、総合的な助言を受ける。 ○地域の農業者や関係者とともに農産物の収量向上に向けた取り組みを実施する。 ○つくも4号の普及推進
【No.5】 グリーンパートナー推進事業	農業関係団体が連携し、「農業後継者配偶者対策」を実施する。	○市、農業委員会及び農協が連携し、都市の独身女性との交流の場として当該事業を実施した。 * 年代を分けて、2回開催 ・男性30歳以下の部 8/18~19 ・男性31歳以上の部 9/8~9	○市、農業委員会及び農協が連携し、独身女性との交流の場として当該事業を実施した。 * 9/7~8

新規就農者数	計画	11	7	8	9	10	45人	〈概ね達成〉 【第2期戦略に向けた考え方】 農業の担い手の確保と育成を図るため、農業・農村担い手支援規則にもとづく支援や学校訪問、就農相談会への出展を行い新規就農者数を確保をめざす。
	実績	12	4	3	8	15	42人	

【No.6】 移住促進事業	大都市圏からの移住者及び体験移住者の増加を図る。特に、農業の新規就農者の移住者の増加をめざす。	○短期移住体験者を受け入れた。 * 延 344人	○移住住宅のあり方を検討し、新たな移住・定住パッケージ(受け入れ態勢)を構築する。
------------------	---	-----------------------------	---

移住体験者数	計画	延	延	延	延	延	延	【未達成】 【第2期戦略に向けた考え方】 短期移住住宅は、大都市圏からの移住者等の増加を目的として整備したものであるが、実態として、宿泊目的での利用が多く、移住や定住につながらないこととあわせ、老朽化も進んでいることから、令和元年度から廃止した。第2期戦略では、新たな移住・定住パッケージを構築するなかで、移住者・定住者の拡大をめざす。
		500	600	700	800	1,000	3,600人	
	実績	延 641	延 699	延 490	延 344	延 0	延 2,174人	

【事業名: やさしい農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.7】 サフォーク種羊振興事業	羊飼養者の定着化と経営の安定を図るため、飼養管理及び種雄導入の支援を行う。	○羊の飼養管理費や羊肉の流通促進等に対して助成をした。 * 飼養者数 5戸 ○地域おこし協力隊による飼養管理技術の研修や各種講習会への参加、畑作物や野菜の試験栽培などにより、羊飼養者の育成に努めた。 * 隊員数 4人 ○地域おこし協力隊員1人が、年度末にて任期を満了し、H31年4月から、新規めん羊生産法人に就労した。(4月末に任期を満了した協力隊員も、5月から市内肉用牛生産法人に就労)	○羊の飼養管理費や羊肉の流通促進等に対する助成を予定 ○種雄導入に対する助成を予定 ○スクレイピー抵抗性の向上対策を予定 ○士別産サフォークのGI制度の取得及びPRをめざす取り組みを予定 ○新規めん羊生産法人に対して、めん羊導入及び羊舎建設、機械導入に対する助成を予定 ○地域おこし協力隊による各種研修を予定

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						目標値	評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度			
羊新規飼養者戸数	計画	1	1	2	1	1	6戸	飼養者戸数(未達成) 飼養頭数(概ね達成) 【第2期戦略に向けた考え方】 新規飼養者及び飼養頭数は、重要業績評価指標(KPI)の達成までにはいたらなかったものの、計画期間内の各種取り組みや既存生産者の規模拡大等によって、着実な成果として表れている。第2期戦略では、羊肉のさらなる高付加価値化や人材確保・育成等を図ることによって、本市のサフォーク羊の飼養頭数の拡大をめざす。	
	実績	1	0	0	0	1	2戸		
羊飼養頭数(繁殖雌)	計画	550	600	700	750	800	800頭		
	実績	551	528	555	614	684	684頭		

【No.8】 農業体験受入事業	修学旅行や企業等の研修のための農業体験者を受入れる。	○学校や企業等の研修のための農業体験者を受け入れた。 * 延298人 トヨタ工業学園 262人 愛媛農業大学校 36人	○学校や企業等の研修のための農業体験者を受け入れる。 * 延288人 トヨタ工業学園 124人 愛媛農業大学校 42人 アイソAW高等技能学園 118人 就農体験ツアー 4人
--------------------	----------------------------	--	--

農業体験者数	計画	延200	延300	延300	延400	延500	延1,700人	〈概ね達成〉 【事業の効果】 トヨタ工業学園や愛媛農業大学校などを対象に農業体験者を受け入れし、基幹産業である農業のPRにつながった。
	実績	延356	延378	延309	延298	延288	延1,629人	

【No.9】 6次産業ネットワーク推進事業	本市の優れた農畜産物等を活用し、生産加工・流通を活性化するための体制づくりを行う。	○士別市産の農畜産物を活用し、6次産業化を行う農業者、農業団体を支援した。 * 事業件数 2件 ○6次産業化の推進に向けて、関係事業者による意見交換会を開催した。	○士別市産の農畜産物を活用し、6次産業化を行う農業者、農業団体を支援予定 * 事業件数 2件(予定) ○6次産業化の推進に向けて、関係事業者による意見交換会を開催した。(7/18)
--------------------------	---	---	--

6次産業化支援数	計画	1	1	1	2	2	7件	〈達成〉 【事業の効果】 6次産業化商品のパッケージ作成及び商品開発機器の購入に対し、支援を行うことで農業者等の負担軽減が図られた。
	実績	1	2	2	2	0	7件	
新規販路開拓件数	計画	1	1	1	2	2	7件	〈未達成〉 【事業の効果】 農畜産物の新規販路開拓に向け、市外物産展に参加し、本市の商品PRにつなげた。
	実績	1	1	1	0	0	3件	

(2)おいしい農業農村づくり

【事業名: おいしい農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.10】 ふるさと給食事業	地元の優れた農産物等を活用し、小中学校の給食において食することで農業への理解を深める。	○士別市産の農畜産物を活用した給食を提供した。 * 実施回数 8回	○士別市産の農畜産物を活用した給食を提供する。 * 実施回数 8回(予定) * 対象を従来の小中学校から就学前児童施設に拡大 (私立幼稚園3園・認可外保育園2園・へき地保育園3園 計8施設)

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						目標値	評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度			
ふるさと給食実施回数	計画	7	7	8	8	8	38回	〈達成〉 【事業の効果】 地元生産者やJAとの連携のもと、地元産の食材を多く活用した給食を提供することで、地元産食材の魅力を学ぶとともに生産や流通に関わる方々との交流等により地元への「愛郷心」を醸成することができた。	
	実績	7	7	8	8	8	38回		

【No.11】 6次産業ネットワーク推進事業 *再掲 No.9	6次産業取組者と農畜産物等の直売者のつながりを強めるとともに、商品PRの強化等を図る。	【No.9】参照	【No.9】参照
---------------------------------------	---	----------	----------

【No.9】参照

(3) がんばる農業農村づくり

【事業名: がんばる農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】	【Check(確認)】							評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】	
				KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		目標値
【No.12】 ICT農業推進事業	作業の効率化、安定化を図り、経営規模の拡大をめざし、ICT化を推進するための研修等を実施する。	○ICT農業に関する研修会を実施した。 *参加者 延 221人 ○ICT営農支援システム実証実験を実施した。 (地方創生推進交付金)	○ICT農業に関する研修会を実施する。 *参加者(予定) 延 100人	ICT 農業 研修者数	計画	延 100	延 100	延 150	延 200	延 200	延 750人	〈達成〉 【事業の効果】 ICT農業に関する研修会の実施や、農林水産省主催のICT研修会等に参加し、ICT農業への理解度向上と、GPSガイダンスシステム等のICT技術導入の促進が図られた。
					実績	延 136	延 125	延 176	延 221	延 100	延 758人	
				GPS 移動局 導入件数 ※()年度 導入数	計画	4	—	—	—	—	—	〈達成〉 【事業の効果】 高精度GPSガイダンスシステムの導入により、作業効率の向上や作業時間の短縮、資材・燃料の節減が図られ、ICT農業の促進が図られた。
					実績	延4 (4)	延10 (6)	延11 (1)	延96 (85)	延100 (4)	延100件 (4)	
【No.13】 安全・安心農業ふれあい事業	地場農産物の消費拡大を図り、地産地消を推進するためイベントを開催する。	○「産業フェア」等の開催を支援した。 産業フェア(8/26 11,000人) 復活！朝日町商店街(9/16 3,500人)	○「土別ビートまつり」、「産業フェア」などの開催を支援した。 土別ビートまつり(6/30 3,600人) 産業フェア(8/25 10,000人) 復活！朝日町商店街(8/11 3,200人) じゃんじゃんジュビリー(9/1 1,800人)	イベント 参加者数	計画	延 17,700	延 16,000	延 19,000	延 17,000	延 21,000	延 90,700人	〈達成〉 【事業の効果】 天候等の要因により集客が少ない年もあったが、地場産物の消費拡大、地産地消の推進が図られた。
					実績	延 18,200	延 19,100	延 21,500	延 14,500	延 18,600	延 91,900人	
【No.14】 農業研修施設整備事業	新規就農に向けた研修及び農業体験が可能な施設の整備を行う。	○JA等の関係機関と連携し、今後の研修施設のあり方等について検討を進めた。	○JA等の関係機関と連携し、今後の研修施設のあり方等について検討を進める。	新規 就農者数 【再掲】	計画	11	7	8	9	10	45人	〈概ね達成〉 【事業NO.2~5のKPIに記載】
					実績	12	4	3	8	15	42人	
				農業 体験者数 【再掲】	計画	200	300	300	400	500	1,700人	〈概ね達成〉 【事業NO.8のKPIに記載】
					実績	356	378	309	298	288	1,629人	

2. 重点プロジェクト「合宿の聖地創造事業」の実施状況

(1) やさしい合宿地づくり

【事業名：合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.1】 合宿招致活動事業(海外)	一層の合宿者の増加を図るため、また2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、海外からの合宿の招致活動を展開する。	○韓国女子マラソンナショナルチーム合宿受け入れ(5/30~7/8) ○香港陸連合宿受入(5/22~7/2・9/7~9/19) ○中国ジャンプナショナルチーム(7/10~21) ○士別市教育委員、中華民国舉重協會(台湾ウエイトリフティング協会)合宿招致要請(11/25~28)	○台湾ナショナルチーム合宿の受け入れを実現するための招致活動を行う。 (4/29に内閣官房オリ・パラ事務局と訪台し、士別合宿実現に向けた打合せ実施)
【No.2】 外国語研修事業	海外からの合宿者のおもてなしに資するため外国語研修を実施する。	○公民館と共催で「台湾語教室」を実施(5回) ※H31/1/30~2/27	○公民館と共催で「はじめての台湾講座」を実施(5回) (7/4~8/1)
【No.3】 合宿招致イベント開催事業	合宿の里士別を内外に発信し、合宿者増加を図るため、PRイベントを開催する。	○国内各種大会へ出向き招致活動を展開し、合宿招致に向けPRを実施した。 ○高雄国際マラソン会場にて、士別市で士別ハーフマラソンを含めたPRブースを設置した。 ○士別ウエイトリフティング少年団台湾派遣(3/26~29)	○合宿の里士別を内外に発信するため、効果的なPRを実施する。
【No.4】 外国語対応招致パンフ作成事業	合宿者の増加を図るため、国内外に向けてのPRパンフレットを作成する。	○H29月年度で事業完了	○H29年度で事業完了 ただし、掲載内容の変更や不足が生じたときは対応する。
【No.5】 外国語併記案内看板作製事業	本市で合宿する海外選手にもやさしい案内看板を設置する。	○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了
【No.6】 合宿の聖地構想策定事業	より充実した環境で合宿できるよう、「合宿の聖地」をめざす将来ビジョンを策定する。	○2014年に策定した「合宿の里士別ステップアッププラン」を2017年度に見直し。	○見直し後の「合宿の里士別ステップアッププラン」に基づきながら事業を展開。

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】					目標値	評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
合宿者数 ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	合宿者数(概ね達成) 新規招致チーム数(達成) 海外チーム招致数(達成) ナショナルチーム招致数(達成) 【第2期戦略に向けた考え方】 第1期総合戦略では2020年東京オリンピックを見据えた中で、国内選手の合宿だけではなく、ナショナルチームや海外チームの合宿受け入れ拡大を図った。 次期戦略においても、合宿の里士別推進協議会とのさらなる連携により、招致活動を充実させるとともに、スポーツ合宿の里づくりの前進と合宿人口の拡大をめざす。
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)	延 23,810 (584)	延 113,970人 (2,529)	
新規招致 チーム数 ※()海外 チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16 チーム	
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)	40 (0)	延98 (16) チーム	
海外チーム 招致数	計画	1	1	2	2	2	延8 チーム	
	実績	1	1	9	8	4	延23 チーム	
ナショナル チーム 招致数 ※()海外 チーム数	計画	3	3	3	3	3	延15 チーム	
	実績	4 (0)	3 (0)	2 (1)	6 (2)	3 (0)	延18 (3) チーム	

【事業名：スポーツ合宿推進事業】

【No.7】 合宿招致活動事業(国内)	一層の合宿者の増加を図るため国内の大学、実業団、中央競技団体へ招致活動を展開する。	○全日本スピードスケートナショナルチーム合宿受入(8/19~8/29) ○各チームの拠点への訪問による招致活動を行った。	○合宿招致効果の高いスポーツ大会やチームの拠点訪問での招致活動を展開する。 ○海外チーム及びパラリンピック競技団体に対してさらなる招致活動を展開する。
【No.8】 合宿受入れ事業	合宿選手受入れにあたっての送迎をはじめ、市民との交流を促進する。	○これまでの取り組みを継続し、空港等への送迎や宿泊先の調整などを行った。	○空港等への送迎体制の徹底や宿泊先の調整などきめ細かな対応を実施する。
【No.9】 合宿の里推進協議会補助金	官民一体となった合宿推進を行う体制を整備する。	○協議会で掲げる事業を推進し、市民協働の合宿の聖地づくりを進めた。	○協議会加盟団体の主体的な取り組みを促進し、地元企業や飲食店等との連携を進める。 ○市民協働の合宿の聖地づくりをめざす。
【No.10】 ランニング教室開催事業	合宿中の選手によるランニング教室やオリンピックデーランのスポーツ教室などを通じ、市民の競技力の向上を図る。	○スポーツ能力向上事業を体育事業として実施し、トップアスリートによる指導を受けた。	○トップアスリートによる陸上教室をはじめ、各種スポーツ教室の開催により、スポーツに親しむジュニア世代の育成・拡大に向けた取り組みを推進する。

合宿者数 (再掲) ※()海外 合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	合宿者数(概ね達成) 新規招致チーム数(達成) 【事業No.1~6のKPIに記載】	
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)	延 23,810 (584)	延 113,970人 (2,529)		
新規招致 チーム数 (再掲) ※()海外 チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16 チーム		
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)	40 (0)	延98 (16) チーム		
スポーツ 教室 参加者数	計画	250	300	350	400	500	延 1,800人		【事業の効果】 各教室を通じて、スポーツを「する」楽しさや競技力の向上にむけて多くの機会を提供することができた。
	実績	181	344	502	481	512	延 2,020人		

(2)おいしい合宿地づくり

【事業名:合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.11】 合宿選手対応メニュー開発事業	合宿選手向けに地元農産物等を活用した士別ならではのメニューを開発する。	○アスリート食事メニュー開発や「合宿メニュー講習会」を開催し、各宿泊施設での活用を促進を図った。また、ふるさと給食とアスリート食事メニューと合わせた給食を提供し、合宿のまちの魅力を発信した。	○地元食材を活用した合宿メニューの開発を継続し、合宿チームへの提供のみならず、市民への還元をめざす。

重要業績評価指標(KPI)の推移

【Check(確認)】								評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	
新規メニュー開発品目	計画	2	2	3	3	5	15品目	〈達成〉 【事業の効果】 地域食材を活用し、栄養バランスに配慮した多くのメニューを開発した。
	実績	8	4	10	2	0	24品目	

(3)がんばる合宿地づくり

【事業名:合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.12】 低酸素室整備事業(朝日地区)	競技力の向上をめざし、各種機器や器具、設備等を整備することで、合宿地としての魅力向上を図る。	○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.13】 林道クロカンコース整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.14】 陸上競技運営システム整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.15】 運動施設整備機器更新事業		○3000M障害器具、卓球台を更新した。	○陸上競技場写真判定機整備
【No.16】 ウェイトリフティング器具整備更新事業		○H28年度で事業完了	※追加で東京オリンピックウエイトリフティング競技に使用する公式バーベル整備

重要業績評価指標(KPI)の推移

【Check(確認)】								評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	
合宿者数(再掲) ※()海外合宿者数	計画	延21,000	延22,000	延23,000	延24,000	延25,000	延115,000人	合宿者数(概ね達成) 新規招致チーム数(達成) 【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	延20,961(8)	延21,886(36)	延23,090(858)	延24,223(1,043)	延23,810(584)	延113,970人(2,529)	
新規招致チーム数(再掲) ※()海外チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16チーム	
	実績	4(1)	9(1)	20(7)	25(7)	40(0)	延98(16)チーム	

【事業名:合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.17】 スポーツイベント開催事業	合宿の聖地としてのイベントの進化を図り、参加者にとって意義あるものとする。	○各種イベントの開催 デスタンスチャレンジ士別大会(196人) ハーフマラソン大会(1,861人) オリンピックアスリート大会(2,208人) 全日本サマー・ジャンプ朝日大会(71人) 全日本サマー・コンバインド朝日大会(111人) 全日本ジュニア&レディースサマー・ジャンプ朝日大会(98人) 2018合宿の里士別ジュニアサマー・ジャンプ交流大会(54人) 朝日ノルディックスキー大会(395人)	○各種イベントの開催 デスタンスチャレンジ士別大会(263人) ハーフマラソン大会(1,704人) オリンピックアスリート大会(2,003人) 全日本サマー・ジャンプ朝日大会(77人) 全日本サマー・コンバインド朝日大会(114人) 全日本ジュニア&レディースサマー・ジャンプ朝日大会(101人) 2019合宿の里士別サマー・ジャンプ交流大会(47人) 朝日ノルディックスキー大会(420人)※見込み

重要業績評価指標(KPI)の推移

【Check(確認)】								評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	
イベント参加者数	計画	延4,000	延4,500	延5,000	延5,500	延6,000	延25,000人	〈概ね達成〉 【第2期戦略に向けた考え方】 国内外のトップアスリートが多数参加するメリットを生かし、質の高い魅力ある大会づくりをすすめ、参加者数の拡大をめざす。
	実績	延4,369	延4,900	延4,393	延4,994	延4,729	延23,385人	

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.18】 トレーニングセンター整備事業	あらゆるスポーツの基礎となるウェイトトレーニングやランニングが可能な施設を整備する。	○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了

合宿者数(再掲) ※()海外合宿者数	計画	延21,000	延22,000	延23,000	延24,000	延25,000	延115,000人	合宿者数(概ね達成) 新規招致チーム数(達成) 【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	延20,961(8)	延21,886(36)	延23,090(858)	延24,223(1,043)	延23,810(584)	延113,970人(2,529)	
新規招致チーム数(再掲) ※()海外チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16チーム	
	実績	4(1)	9(1)	20(7)	25(7)	40(0)	延98(16)チーム	

【事業名：合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	R1年度 実施 【Do(推進)】
【No.19】 無線LAN構築事業	合宿者のための宿泊環境を整備し 利便性を向上する。	○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.20】 洋室照明整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.21】 井水装置整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.22】 循環ポンプ整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.23】 大浴場改修事業等		○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】					目標値	評価及び次期戦略に向けて 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
合宿者数 (再掲) ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	合宿者数(概ね達成) 新規招致チーム数(達成) 【事業No.1～6のKPIに記載】
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)	延 23,810 (584)	延 113,970人 (2,529)	
新規招致 チーム数 (再掲) ※()海外 チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16 チーム	
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)	40 (0)	延98 (16) チーム	

【No.24】 宿泊室バリアフリー化事業	障がい者スポーツの振興と2020東京オリンピック・パラリンピックを見据え、宿泊室のバリアフリー化を図る。	○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
-------------------------	--	-------------	-------------

障がい者 スポーツ の 合宿者数	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	【未達成】 【事業の効果】 福祉ボランティアの協力を得ながら、ウィル チェアラグビーなどの障がい者スポーツ団体 等の受け入れを行った。
		延 12	延 12	延 20	延 20	延 30	延 94人	
	実績	0	延 39	0	延 26	0	延 65人	

【事業名：朝日地域交流センター整備事業】

【No.25】 施設修繕事業	合宿者のための宿泊環境を整備し 利便性を向上する。	○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了
【No.26】 エアコン・カーテン 整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了

重要業績評価指標(KPI)の推移

合宿者数 (再掲) ※()海外合宿者数	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	目標値	【概ね達成】 【事業No.1～6のKPIに記載】
		延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)	延 23,810 (584)	延 113,970人 (2,529)	